

国語【発展コース】

1学期からこれまで五・七・五作文、俳句に、行事があった時や季節の移り変わりに取り組んできました。わずか17音で自分の気持ちや風景の美しさなどを表現するには、語彙力に加えて言葉選びのセンスが必要とされます。実際に自分で俳句を書いてみることに加えて、クラスのお友だちの作品に触れるということも大切にしてきました。最近では連絡帳の「今日の一言」の欄も五・七・五作文で書くようにしています。とにかく『書く』『鑑賞する』の量を増やすことで作品のクオリティを上げていきたいと考えています。

今回はi-Padを持って外に出て、秋の俳句のネタを探しに行きました。正解のない問いに対して自分なりの答えを見つけることは、複雑化している現代社会において必要とされる力と言われています。子どもたちは、中庭をあちこちと動き回り、また幼稚園のイチヨウの木の角度を変えて何枚も撮り直す、その姿がとても頼もしいものに映りました。実際に足を運んで集めてきた写真に秋の俳句を添えて写真詩にして掲示しました。



- 『見つけたぞ きれいな葉っぱ みんな来る』
- 『どこかな～ 秋の隠れぼ あ～いた～』
- 『木の道で 太陽ピカピカ もみじの舞』
- 『ふとみると あきのせかいが やってきた』
- 『屋根の上 枯れ葉が積もり 雪みたい』
- 『葉っぱがね 赤や緑に そまったよ』

「悲しい!」、「楽しい!」など、喜怒哀楽をダイレクトに表現する言葉を使わずに、いかに自分の気持ちを17音で表現できるかという課題にもチャレンジしています。やはり回を重ねるごとに、子どもたちの用いる表現は、どんどん巧みになっていますし、今回、『写真の選び方』も作品の完成度を高める重要なポイントになっているのですが、写真の構図もさすがと思わせるもので感心しました。

今回の写真詩は文字の配置や配色に満足していない子どもたちがいたようで、「冬の俳句も作りたい!」「またi-Padを使って写真詩を作りたい!」と話してくれています。「文字の配色・配置をもっと工夫をすれば良かったな」と、次回への意気込みを聞かせてくれる子どもたちもいます。ぜひ3学期もたくさん俳句を作りましょう!そして言葉のセンスを、みんなで磨いていきましょう!

各コースでの取り組みや授業での様子、英語の最新情報、中学入試についてなど、様々な情報をお知らせさせていただくため、『コース通信』を発刊いたします。今号では、『各教科での活動』『大学入学後に差がつく、小中高で身につけておきたい力とは?』を掲載します。

国語【進学コース】

進学コースの2学期の後半は、主に、『山場のある物語を書こう』、説明文『くらしの中の和と洋』、物語文『ごんぎつね』を学習しました。

『山場のある物語を書こう』では、組み立てを考えて物語を書くことを目標に、それぞれのオリジナルストーリーを書きました。友だちに関することを題材にする子が多かったですが、その他にも動物や雨など、何かが嫌いだったのが、あるきっかけで好きになったというお話などを書いている子もいました。絵本が完成して、みんなで読み合うときには、とても真剣に、そしてにこにこ笑いながら読み合っていました。

『くらしの中の和と洋』では、身近な暮らしの中にある『和』と『洋』について調べ、紹介文を書きました。教科書では『住まい』について書かれてありました。和室と洋室の違いやそれぞれの良さを読み取った後、自分の調べたい『和』と『洋』を探して、本文をお手本にしながら説明文を書いていきました。子どもたちは、洋服と和服、お箸とフォーク、バッグと風呂敷、ペンと筆、紅茶と日本茶など、様々なものを比べて、それぞれの違いや良さを書いていきました。発表会では、友だちの発表を興味を持って聞くことができました。

3学期に学習する説明文も、とてもおもしろい内容です。これからもみんなが意見を出し合っ、活発な授業にしていきたいと思えます。



英語【発展コース】

フィリピンの方(フローレンスさん)との交流を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で来日していただくことが叶いませんでした。そこで、子どもたちは、フィリピンについて調べ学習を行い、次回の交流まで知識を蓄え、よりよい交流ができるように準備しています。また、調べた内容をkeynoteにまとめて英語でプレゼンテーションにも挑戦します。その動画はフローレンスさんにお送りし、zoomで感想をいただき交流を深めていきます。子どもたちは、人口や季節、食べ物や動物など、グループに分かれてフィリピンの魅力をまとめています。

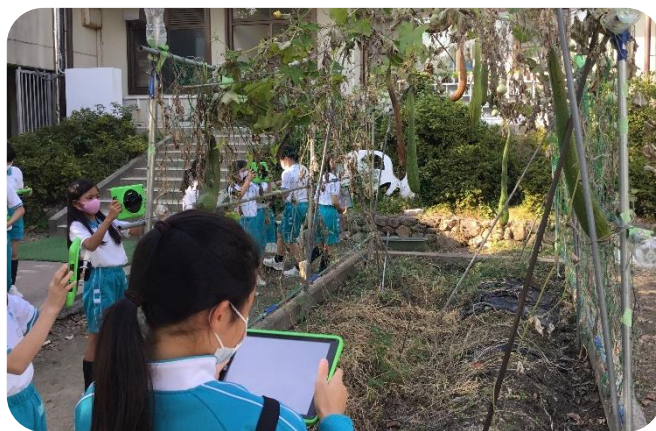


理科

4年生は、『秋の生き物』と『みんなで使う理科室』の学習をしました。

夏に大きく成長したヘチマも実が茶色くなり枯れてくるという、季節による植物の変化をiPadを使って写真を撮ったり、実に触ったりして観察しました。茶色く枯れた実は持ってみるとものすごく軽く、まだ緑色の実はずっしりと重みがあることにみんな驚き、「かるーい!」「めっちゃ重い!」と交互に持ち比べていました。収穫した緑のヘチマは、はかりに乗せると1.2kgあったのが、1日に40gずつ減っていき、茶色くなる部分が増えるにしたがって手で持ってもだんだん軽くなるのが感じられました。やがて、底が抜けて落ち、振ると大量の種が次々に出てくる様子も圧巻でした。植物のうまい仕組みにみんな感心していました。

『理科室の使い方』を学ぶ中で、マッチをすって火をつけ、手首を返してマッチ棒の傾きを調節し、できるだけ長い時間燃やし続けられるようにコントロールすることも身につけました。割りばしの燃え方の観察でも、上手に火を扱っていました。最初怖がっていた子も、だんだん慣れてきて、ガスバーナーの火を調節して、炎に手を通すこともできるようになって喜んでいました。



算数【進学コース】

年間計画通り、2学期から進学コースと発展コースの進度を変えました。進学コースはスピードを上げて学習を進めましたので、2学期中に4年生の内容がほぼ終わろうとしています。

2学期は、『垂直・平行と四角形』や『面積』など、中学入試に直結する図形の重要分野をたくさん学習しました。単元テストでも入試問題から何問か出題しましたので、少し難しいテストになりました。でも、どちらも平均点は約70点と健闘しました。よくがんばりました。

『分数』や『小数の計算』など、これからの土台となる分野も2学期に学習しました。文章問題や応用問題は、これから練習が必要ですが、計算は全員ができるようになりました。

現在学習している『直方体と立方体』で4年生の内容が終わります。3学期は、同じ分野の5年生内容である『体積』の先取り学習からはじめる予定です。3学期の終わりまでに、5年生上の教科書の半分くらいまで進めていきます。

学習の合間に、カードに書かれた形と個数と色を当てるゲームをしました。それは、『背理法』といって、とても大切な考え方を学ぶゲームでした。最初はカンで答えていましたが、ゲームを進めるにつれて、みんな背理法の考え方が身につけてきました。また、時間があればやりたいです。

算数【発展】

10月に入り、『四角形の特徴』『分数』『面積』、11月下旬から12月にかけて、『小数のかけ算・わり算』を学習してきました。特に、筆算をきちんとできるようにすること、わり算のあまりをきちんと理解できるようにすることを目標に、日々演習に取り組みました。

『分数』の計算では、みんな順調に進めたようです。ただ、図形の問題（四角形のとくちょうと面積の分野）になると、得意・不得意の子の差がはっきりと出てきました。

また、『面積』の単位が苦手な児童が目立ちました。4年生の残りの分野は、『直方体と立方体』だけになり、3学期には、十分4年生の総復習ができると時間がとれます。そこで、3年生までで学習した重要な項目も取り入れながら、4月のコロナの時の不足分野や苦手な図形全般（角度・平行・垂直・四角形）と面積の分野をきちんと基本から演習を積んで、5年生につなげていこうと考えています。2学期に入り、みんな積極的に授業に取り組みしていると思います。この調子で、意欲的に算数の学習に取り組んで5年生・6年生でも頑張ってもらえたらと思っています。

大学入学後に差がつく、小中高で身につけておきたい力とは？

学園入試企画室 室長 吉永先生へインタビュー

さて、皆さんは「学校と社会をつなぐ調査(通称:10年トランジション調査)」をご存じでしょうか？これは2014年から京都大学と河合塾が共同で行っている調査で、同じ生徒(2014年時高校2年生)を10年間継続して追いかける、日本では他に例を見ない大規模調査研究です。まだ最終段階までできていませんが、私が注目しているのは第2回調査にあたる大学1年生時の結果です。

大学1年生の時点で、社会で活躍するために必要な力とされている『他者理解力』『計画実行力』『コミュニケーション・リーダーシップ力』『社会文化探究心』さらには『学力』とも大きく関係していたのが『主体的な学習態度』です。もちろん、主体的な学習態度が高いほど、これらの力が高いという関係性が見取れます。さらにこの『主体的な学習態度』と関係性の高い、高校時点での能力として『コミュニケーション力』『リーダーシップ力』『キャリア意識』があげられていました。

この結果から最も大切なことが『主体的に学ぶ』ということは明らかです。特に、『受験のためにやらされる勉強』ではなく、大学進学への目的意識を持ち『自分の将来のために自らやる勉強』へ意識・行動を変えることが将来大きな差を生みます。また、さまざまな体験・経験を仲間とともにやり、議論をしたり発表をしたりする経験が、後の成長につながってくる。つまり、自分の考えや体験を『言語化』できる力がこの『主体的な学び』を加速させると言えるでしょう。

変化の速い現代、ジェネリックスキル(汎用的能力)を磨いておくことが重要視されてきています。このような結果を参考にしながら、中学校選びを考えてみるのも良いでしょう。

